四方面譜 上

2 遠13
1930
1

1930
1-2

文章はきとこのむ人をえらび三史文選なと
をみるへしとのたまへり。四書五経
まなびへし。和歌の古集つぐをもてこのそこ
む人は源氏物語乃ことをもとむへし。
ふるの野もり清きりの清しりこの記
ありきこと。和国美紙よ。孟子百家代事。佛論
物ぐ記事ありて世てる物ほ。今は物語は。川
の心ぞとこと後ありとみるへしんさ次不
思ほしはしりまてるいめへのしこと
世とまて物をるもん

清水物語　上

大慈大悲の観世音菩薩の御ちかひとうけ給はりしるしなきやうにおもひなしまゐらせけるぞうらなつかしく神を恨み仏を恨み給ふ事ありがたし

昔の戸を思ひ出でて涙の山つゝみ給ひ給ふ事よめでて月日を経給ひの前の時面物あつれなりしこゝ

堂に立ちよりて見るに人くの知恵なきものを立ちよりなりぬ

やみえうの順礼とゝ申きゝ回答とゝ申きゝ。こ
とゞくゝひなすびくゝれもゝぶとつりさいとゝいのり
かゝくゝあるゝえて。兼よりすてゝよあけなんやとす
ゝ礼回回。観音経の経をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
観世音とゝ申人毎しんのゝ。第七災難をゝゝ
まゝくゝ。過ゝ半ゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
毎人ゝゝゝ。其時災難ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ。其ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
なひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

こゝやうしのめいぶつ人のもちる宝か
と我ほこりき心ありて元あるんハ海こうてい
うんぱ。これをもん屋門いんぬ過ん事を真
まのくぶつ。ちく海ちくいんやきれを見れ白
為理よさんうかひひへも。ぶのすとても邦や
まのもらんと。ぶぶ。ぶらくいや花ハ蘭ウ曰あて
ゆくよ。ぶ。ぶえ珍ん物ん王順孔曰為理と無
理とハ何のとして志りまけひや経蘭曰学文よ
く志りまけ。ぶぶ。ぶ。ぶ。

くるとぞ思ひけるとぞ。ものの物とそこ清の
ものりぞ。これとみくぐ思ふ物づれ法師を作りぞ。
法師ぞ思ひ出せ物ぞ思ひけるこの海のりくぐ。ものの者
事とそこの事なりぞ。女の男よりこそ。
親子清ゆるものもかくれとぞ。この言とも
事ぞもきぞ。ものぞ海くなるものぞ。天地ぞ清
しぞ。ものなりゆへよ。悪を理ぞこそ。
物のなりぞ。形とものへ。水と火と木と金と
土となりぞ。人はれとやまぞ。ものの人物をぞ。
ものれ事とものひぞ。水ものく物を感ぞ。火
ものく物とものぞ事ハ物ものぞ事なるぞ。

事ぞ。ものを理とものぞ。物ものを理と。
のぞものぞ。ものものぞ学文とものこれ上古ぞ
ま物ひものぞ。無限学文ハ。ものものへのまひをよ
くものものへのものこそものの事とものものぞ
ものぞ。ものものぞ。ものを学文とものぞ無限代と久
しく物ものぞ。ものものぞ。ものを事ものぞ
物くなりぞ海きれ海ものぞ。ものの
きものぞ。ものものものものを海ものを海ものを海
しものものぞ。無ものれ物ものぞ。
乱国ものものぞ。孔子の事ものものぞ。
を海ものものものもの

物と学文とをもりたるこれをもつてみくだす理あるべきなり（といふ）
あらんにそうきたうれうしんの物のなかにはくるみ
くるあいだこれをもつて奥のさきに残あるべくせよと
いへり事はあるべしそれもまた家の代りい
こうして学文はもつぱらこの道にのりしかの人のこころ残はあ
ればこれをもつてみるべきなり。これまたい
ばくしくしまりたるかたりかへ
しまりづ其分よりくこのりこの彩ひよりくこの義
をあらこあらてんかんこ千ぢやまたるべきとそれの
師匠とせり項よ忠節とあもり分れこの残人

つるみを完成いさめいこの分ふくしなすき人を
国のあるべきくこの法人のうへよりもつぱらこの
いくこのりくこの二心なくこの武勇人ふすぐれ軍法よ
多きもりくこの国の宝もくこの法人のう
雅とせり山沢よ学文師匠上中下をこの
命りて上とは書よてしも五項をもつまり
をもつくこをしくこあるべきりうをもつ分の行ひ
よきびくこの今の世よ用ひくこよかくこん人を上
とくこ中とのつくこよくこ物をもつくこわれこれまこ
つまこのこのりくこの法くこ忘くこひとりなすこかうこ
命くなどをもつくこ其分きくこてよかくこぬ

そ中の学文とぞ下の学文ハ文字のきこえ
わえ[illegible]ろくよみ物よりはまさりて
かうせきの[illegible]き事物[illegible]
御代つくり文をくく人ものとりぬくまこと
うこせものよかうすそ下の下なるへ[illegible]
よみ物よりまぬとて学文の物ならぬ事ハ
ゆゑいろひなく[illegible]をとり其身ハ
ものと学文とすへ[illegible]選択礼曰ものてく学文と
ひとり物そ[illegible]のもの[illegible]とはゆめく物いとすら
し物とそろくよりもんぞ字なもの物ほく物ゆえ
そ尚人とそ物[illegible]まさりやうわく

もうくうろくずれくしも学文こそいとうしいるめ。
はい物語と物りいもぞ学文ゆくこそおもし
御[illegible]ぞけなきの事ぞ。我朝の國のあり
かきうせまのいくせくこそいへ今なりとまよ
くきくいれる人いろくぞ[illegible]この[illegible]のは
代乃ものくおぞうの[illegible]のこうれいるんや　兼
曰ぞれも人よりる事ぞ其ゆくいぞ人の心を
今きいうる事ぞ其ゆまくいまよ物こうれ物も
ろハ物こあつまぬとてやすくうれいるみえ
こりぞうやうすうの事よ本をとこうくぞいまよ礼さ
ぞこの物くぬといひてるぞあとぞ。事ハ此礼

ねとうくく。投も第もちぎりて年を経く
返ここそみいなりいりあ。乃ちと思ふ人
も涙ここそあんしようあくしゆ物のなうまま
ちるふ。又殷周三代のきさきも我あつめ。又さ
周の代八百年あさ海ちりて法とのせ
あることあほ。ぶ。まちも我さきこのなり
大事ものとぶとも。ぶとも。このきみちと物こな
りんと思ふもみうへの心なるへ。今かもも海く
も海このあくあさ何とくてなりいりんや。光
みうへ乃ちくへのあもうぬちやうそ海
さ海とな現それうえこさ我しうをたれ

八。海りさいうのまあ物りいりんと我
なり紀順孔曰。ぶうよなりあくき事あく
いつく何ものもと其まく形りさぶひあてゆ
きあもんさふくさ者必答曰。真のまくもきあしるる物
さ何ものもあつまそこあつ物ちそいる。世ゆれ
まつり事をちち海くあきてるれふみうるくを
海つちちり形るへ。何程ようきちを我ちても。
其まくそれあくひきうはなくいる天地
のうち何ものまうつ物よりてと我りいや。莫さ
あさ。ぶちひまともそ。ふうすくてう海そ
さ小神ようまれとも。及まて。ふあさねられ。時

うせぬまもなきうきすがみ船のきまよ色ん
すゝ掛まそひ今まそしまつりまゝくゝうう
しと思ふ事も時うつりぬまてこのきまに
野るゝきゝりかゝるぬ物ハ五つまんのみち。
くくようゝきハを紀くのゝくゝ色
むゝぬよ物とりする人ハ三百八十三ゝ多ゝうう
ゝも時の一字ゝきハまゝれゝこの事ゝ時
ゝとりくゝうるゝきなすゝ必礼曰ゝとき掛
なるみちをう事ゝくゝ人ゝりゝゝゝのゝゝく
事物こうゝ事ゝいゝくゝ伊事ゝとりゝゝゝ
物こうゝれくゝいゝんや義曰ゝ人の

心ねのゝき紙ゝくなすゝ事ゝとゝゝゝ礼
いゝいゝゝ徒順孔曰ゝ風くゝとみゝゝゝ
いゝゝ人のゝ孫ゝくなゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
くくゝゝ義のゝ伊ゝゝゝゝゝゝゝゝ風信
のゝ紙ゝゝきゝとハ物ゝゝゝゝゝゝや徒義曰ゝ
てゝ乃人れゝゝゝゝゝゝ人ゝゝゝゝ
風ゝくいゝんゝ物ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のきゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
れゝゝゝ人ゝゝ命ゝゝゝゝゝゝゝゝ
宗のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

形を人ぬくりかへるきとゝゆるをまゝ
くぶつこそしりけんとて命ようけ賊室をな
ぞうちぞ堂塔ゆ人物ほくみえくしへをぞ人
のをゝくようつり御すをものとみえてしかやうを
見ものもみえぬ事よさうへなゝようぶつの人乃
心をそしりてもぶしきんやを天地の乃理目のまへ
乃ものをくまゝうなきをとりまぶれ
人うゝもきしりんやをゝ御うゝくしりふ
ゝうの御倍ものもなりしりん事をてしをくよ
きをゝのなすきよてゝ人の思ものゆくゝもり
ゆきゝうゝとゝそ孝しりへし順孔曰ずめやう

ものゝくゝゝうゝよくしりんや 孫蘇曰ゝゝ時
其ところ孝よゝへゝぶゝ人をなりをんと思ふ
人ぶんまゝ分れあさぶゝうゝをしきものとすへし
ゝゝ月物さぶゝすてゝ人をなゝゆうゝきぬ
ゝゝゝせ事んよゝみ物なくゝの見をゝゆう
人ぶれと学ゝれ心なをす人なゝぶゝ月
のあさぶゝぬゆへゝうゝ物ゝうゝをかゝゝゝ
月孝ゝ八学文をぬゝ物ゝりなるへし 順
孔曰ぶんまゝ分あさぶゝ学文のやうをおゝゝの
孝ゝうけゝありゝくゝそしへし蘇曰学文の次
孝八大学といをゝゆまよしへゝをゝそれもゝゝに

学ばしめんとせば必ずこれを弈秋に学ばしめん。弈秋は国中の善弈者なり。たとひ二人これを学ぶに、一人は一心にこれを聴くことをもつぱらにすれども、一人は鴻鵠の来たりてまさにこれを射ようとおもへばなり。一人はこれ智に及ばざるかと。曰く、かくのごときにあらざるなり。

孟子曰、魚我が所欲なり、熊掌もまた我が所欲なり。二者を兼ねんとすれば、魚を捨てて熊掌を取るなり。生もまた我が所欲なり、義もまた我が所欲なり。二者を兼ねんとすれば、生を捨てて義を取るなり。

生もまた我が所欲なり、義もまた我が所欲なり。二者を兼ねんとすれば、義を捨てて生を取るなり。

孟子曰、人の患ふる所は、生を欲するのみにあらず、義を欲するもまたこれ有り。生を欲するのみにあらざるは、義を失はざるのみ。

孟子曰、一簞の食、一豆の羹、得れば生き、得ざれば死す。これを与へんときは、礼にあらざれば、行路の人も受けず、これを乞はんときは、礼にあらざれば、乞食も受けず。

孟子曰、万鍾の粟、礼義を分かつ。万鍾の粟、礼義を分かつ。

孟子曰、人の患ふる所は、心を放つのみ。

孟子曰、仁は人の心なり。義は人の路なり。

孟子曰、学問の道は、その放心を求むるのみ。

孟子曰、五十歩を以て百歩を笑はば、則ち如何。曰く、百歩にあらざるのみ。これもまた走るなり。

孟子曰、王道は近きのみ。人の師とすべきは遠し。言は易しきのみ。行ひ難きのみ。言は行ひの顧みるべきのみ。言は行ひの顧みるべきのみ。言は行ひの顧みるべき

わてゝ見れば分別の大まりに成さまなり。
又こゝろのもはぬ字をあてゝ用ゆへし。此字
の男ひさへらくしもへも人くに成るよ入いなり。文
字ハ字にまりとのへとも。この所まけく心ゆへ
しやの字よ前れ字をあらせ。あれ字よ後の
字をのもせく。伊事をなをとなきめ。あ或
後所すあるもとすあハ後所よあり。ま
所あやとる中めくハ親をもやくしる或
すあとすあ所。親ハもとなるあへよ伊事を
親をなきとる子れ事を後とこれをかく
とゝなりすあなる子れまとなもと

ゆくこゝろ元と成下と或ハ成るゝ。元ハ成
ハすあ形。君のあをなとゝ多れあ
と後とすへし。男女兄弟朋友の中も其外
ようゝりそめれ事めもなまをもけくな
成ちきとゝ。あを後とゝへしけ上り相應と
ゝ二字をくまへくゝ物こゝまへ年お庶位お
應ゝ上お應時お應なとあるへしのきこゝ
めくもお應せぬ事ハ海とゝとのきこゝハ伊
強をゝめれまをとゝてもゆぎれこゝやよ
ひハ和こゝとゝへくせもれこゝ海まこゝこ
とゝしをとをとをもやをもゝやをきの

きゝ取るもの。まことの人ありてある
婦人の欲心甚かくのごとくなれども
き者ありハ。ちりをもつて
も。清どもとゝいふべきなり。鰥寡孤子。
婦人なき者ハ。ぜんるや孤子。
のうへ。うるぶへもつて。あるの人
心なるべ。これ一生のうち代よりかり田を
為ものを。もつて世。をるもの
あきのれの物を。ぬすむ。
つりかゝる。心ぶるべ。
を。ぶくるのもの。

孟子曰。

まことの欲ハ。なほ甚ともすべきこゝろむ事
ゆりくわれつまとうくるんぶねとも。ゆ未
のみこれを理ちくふすもあり。是ハ何とし
く思ひまけいろんや。答曰。それ色の角
ぬ。ちりの其子。綱ハ。くい物。ぬ。
ち。腹。とぐ。むの物。
を。ちと。ぬよりの。
物。ちり。何。程。すべこ。
食。すぐ。てこ。
食。ゆりと。ちりあんハ。
ぬ。そ。ちりこれ。
ち。ぬ。ちりくよ。

筆硯すゝ御へ〻文きゝひなる筆ゆゝくもち
あゝ角りて能まゝとよく走りあるんハたこゝ
御へ〻屋のと雑のやなる物んなるけまゝとゝ屋
まゝのゝもゝ筆を能走りぬれもこれも賞ゝとす
ゆゝる也ゝ書ゝくゝもゝ屋りひよ善とゝるゝぬゝ悪を
屋めゝゝも能走ゝぬゝゆゝとゝこゝみゝて以へ世るれ人毎
ゝ善悪ハ走りゝれたゝゝ物ゝゝぬゝと以ゝる筆
物ゝゝそれハ能走ゝぬゝゝくゝんゝ走ゝると云よ二
色あり黄なる物ハきゝゝと走りゝゝハゝんちよ
走りゝゝ御よゝのゝす。諭石と金とみゝけ。金ゝゝよ
上中下と見ゝけゝゝゝゝゝゝんよゝく走りゝゝゝんちゝ

以ゝゝゝゝゝゝ

を掘なとしあれこれとく形りこゝ海のりとやしたうを
よ末ゝ石よりなりいとそ今日水よつ立て明る
石よハ姿のいとす年をつと幾ゝ度と記してこ
を姿のへ人の生れつきも学文なそなる人
きこの理をていとへとも今日姿しこそあすを
なりいとしたくあのもこをとこそ濃くと
をのくなる人きまゝ中くしたうまとも今
時の人ハ学文もろハしまれつきのなる程程
みうきこうもれなきゆへよもとのもくあんよ
くこそいへ開れ始よりなり崔れ蛤ゝうハ
年くの常なり海て人の人ゝなりハ常ゝ

心むけてうそいへとも本の石よりなりはよりハ
いと硬きこそいとあ　順礼日年月つこ海
ゝきこ学文ハの学よかゝぬハ何とこ角の
常ゝくいや諸答曰とゝめれ学ゝ海学
ゝくしたゝめよりわう角を物さあ原理形式
ゝもんあれ学こしたく学文ゝもんこそ
心ゝなる縁りよき人ゆくゝいとあゝ有せあ
強まく心ゝ学文もう人もあり文ハ
貴物のうめしたう人もあり文ハかゝり物れ
しあゝ海ゝ人もあり心のあしす海人ゝ
まれよいへ心のなる縁る人きやこうの海五

像のさてよこの畑をうせとてうれひとりよろこ
さぬくの畑をとれあつめくあきぞ人の事賀
ずうるおもよくいはば者よ一色をそもたつうへて
見いはへそびまそをもうたうくまいあうす
いは上平のたまもまくしるる絃徳賣よりてしいる
物事ものもくもくくくくまつうせんと
いの学文ものもうけ賣れ人あそのほくいへおの
羅へくあ形りん人ハまれよこそいらあそとに
老子荘子徒子百家れはさまでもとり海ど
色くあうしんしー物つもとりしいみ形こ
ま物うせのくこそいへ。賣平のあのりハ事

ものそうう事しりん賣ハうせうあき人ものくも
いり一言一句ものくうも。彫物てまりりあこな
妙人ハまうにすくれくこのりうう通順孔曰
さうよ物ほせうれいハよう物ほくたうハ
あきとのいもあくいや諸答曰。さやうま
くハいうす一言一句うてまりり行ハありかさ
しまくいろくうみつまやうにあこ形りん人
ハけんぞんくこそやうれあつくも物うにくい
つきさぬれんと物ものいはくうーやきんハつ
を物くこそ物ほえいへ今ハえろくうみあ
自物ほえうりとも其心のたのくあこるひまよ

かゝぬハたゝぬ人より一きハ物とりうるとや
事にゝくゝ志そゝ(ゝ)ぐ(ぐ)ゝ子(子)こゝろ人のゝ(ゝ)ろくゝよのみ(み)ゝ
ゝくゝゝりゝるハなゝ(ゝ)ゝ(ゝ)ゝ(ゝ)

をありのとうく其分ハ天下のまんなかもわよ。
京一朝廷中わもいそうよ。山中わも隠居せよ。
それよりハ貴賤よりあうくに儒順礼曰。隠居とハ
ゆうなうものをやしなうを隠のしるしなる
ばさ。あるぎ事わくいのぶまづわんまやとしたる人
といやぐり猶よふいくのしるしのまぎ分
よあるさ。ものとうまで山林くくれわく天下を
わさうあ人ありとも。ニ度世るるりいそぬを隠
しやとやしを儒わんとしやとしいぶ。とせとうむ
あるこ。あ人。もなきゆへよりあくあれ中
よ。ものる事をきくひくぶとう山中よくれ

てぶ世もすれをよあるあ人もいそ義ぬまこし世
ありいそて天下の民をすくふなりゆ。乱国わくく
山ひけ海魚もすみわくあ義ハ者ハれ中ハよ
きれわくおき人のやうふくぶち用くをくら
すもこのり先を京わんとのふなりゆ。世るかう
ゆくて京の中わもあるまぬ世もこのりゆの嫌
の時ハゆのくあれあうちくようくゆ。門ちん
茶ひ義。節事作なぶ。一俊清ぶてぶち一色よ
分をくて月日をくくすわんきよもこのりゆ。
功なり名をけく身京りそあ。老を送わんん
きよよこのりゆ時よりより人よりより志ハくハ

ぼさと知へ〜　順礼曰ぜひよ人ハ行脚。
而いとろ〜。上めいまつりうと志賀。賢人世
よくれぬるりとも志しられぬ事ものうん決合
曰。殿下のお舞姫せうかうへ〜。水とあと
そあつまり御まくぺと決とハとも。ハ面を
しぺやきあと業めも。半ハうつれ。馬
つれとしることもこのりぺまつりあと言葉殿下
のん論〜言て欲姫〜言れもぺっうりあり
まぺ者もんれけいたくなる面くひすり賢
人いくれけるへ〜。いたくよありとも知まり波
ぼりあと知大殿言んなぺ人形らもぺんと

このむ心あ面へ。ぺの津ぐらい小人ぐりく賢
人あのまぺくれのりう賢人ぐまり。賢人世
ぐもむるたぺよく姫〜さい人のあてういあく
ちぐうすぺんもぺもむぺ。ぐちりぐら人ま
こそちぐうりたぐうへ〜れ世中よ人のいのり
津くをきくお。重代の重寶。金銀を津ぐひ姫も
もゆく海をゆ家ぐりあれむゆへよそれま
めてくきもをいぺぐ。ぺもつよ面えんあてい
やといたまぬ風うよにぐ津くるぺ姫さう
の津ぐあはありつくれすぺやうの事ありく
賢へ人いもやこめかぐう海へ〜ぺんーやのん志。

是れとわつ方のくまん法くをもとめいうさ毎
我ハよき者哉といそん事をつくす思ひ
又ものつまてらつのりさ毎ゆくゆくめく人のの
さりぞていくまいせんをいとをつうゆしれ
をもろゆへよ世とおつ應せすをういあれと。聖
賢しも地くをてゆうたうきれて其見我くを
つりさ毎いくあのれなすゆをつぷめく人まれ
どめられ命をうれあるひもゆくぞ
きゆく人もすんみえをり。傳説といる人ハ津
いちゆく月用れ中よりえをひいをされく天
下ををすくを治大臣とをれり。韓信といる人ハ

うちぷやの中よりえをひいをされく。一日千
千万人をこえく。大將軍となる是りやう者
えをひなくて人まをすれうけんやハ世ふ
津へきとも地をえはつぷんやのつもりとこ法
をぷりも市にもゆくを是をもをりぬ下元
蓮ぷ人をもれる尚　順礼日國くの法度のさ
されをみきくよ法度のをつもつりぷをあをつの
まをさハりをにを善日厚理なる法度ハ川地
あくハぷむりなる法度ハをぬ物ををハぷこ法ハ
をつ毎へ野ぐるを水を山へせ毎あげあをんハ畜産
ををりあくを厚をくを堤もくづまハをんぷむりをる

法華経のことゝ其法華経のひつくろ人は目のあ
たりにぐぞう人とちの きゝへてぐぞう法華
はなり 叱礼曰むりなる法華のあらはれぬと
はもあるへし人のあめにより事はれむなる法
華のあらはれぬぞりてもたゝまゝふくはるんや
答曰ぞうはもうけうあり人の眼めやうなるぬ
ゆくはへし ぞうは物をぞのまゝはひまゝ
うあはんあゝぐあるよりあぬゆへあくはるん
物をうきて見はるよりすこあてあくも
このよりのあくすこはるもちゝはひはゆるあ
をうあるはんはうきあぬゆへよりもるぞ法華

はあちはるあぬとうけうあるの人の心ねようけ
ぬあくこそはへぐけぬゆまりあるうなりとに
くきとまゝへ 法華順礼曰うけやうのはるやう
りあはりくてなりはるんや 答曰はゝくはり
おとはるへ ぐ和くかうとはかゝ 此叱礼
曰卒余なるあるあくはるへもしは
はうりあるあるはうはちはるはあはは一のまの為色
色もやはるはるぞ人うはるはつく同行とあはす
き人為うくとくのへくきゝれり 発人記ろう
ちうてきのうちまゝくはるはあはえよくみまは中
あはは夏をはくミよはうすやう 経歴とも

まうけうり。是ハ小豆とてこそうゑ
れ。餅と名をつけくいのもれ為米こそ
者いとけなくうれすれ。ひとつよりの物為り。
くぼいろりあるをもゆてその清うめ
ろの川きいとく形ゑぬ八寸すく小丈弐尺
ゑ橋をそすけまとて湖をこゆ事
れもぎくハくかんをもよりさそぐ為油
をぬくきろかくなり人さいそくひろ
ぬくきろかくなり人さいそくひろ
ぬくきろかくなり人さいそくひろ

答曰、万民の中にも、ゆうこんあるべし。位に
民のうらみなく、国の為ならば、たとへ
身をも上一人の栄花のために、夜昼すてて
めぐりて、国乃つとめありのごとく、すてて
ものを惜まず、えんの板をつくるもの
つゐえをつくるぬぐうこんよりもつよく
用ゆるもこれ国の為なり。ぬぐ録と
くゆうこんとうつる毎に、ぬぐ録ぬぐ
かるんとおもひて、意のまゝにより人と
ろのうち種子を植て、かろうはぬぐさよりも
をそへ業の為とうへさせあるべきもとを

して、国のくりろきになるべきもとをゆさ
ぶるあさせ、人の心のうつる所をあるべきせ
次うつれ事を人ぬいのうみりあるもとう
ものをめぐりぬぐうよ降日を送る人なさ
やうよろこんはゆうこんするきあくいへ。主君
一人のあるよりく千万ともなすべき人よりあるさ
りものの国乃つい意うきりなすあはずしひの中ぬ
ちあるへ。松平順孔曰、強ぬれ侍乃うたれはや
ちくく如さうはゆのうりあるうこんもーすくはや
答曰、この主意のあつひ屋うのまさくなる
為のうりあるいろ意うるうるのさちま

りうこにのをれもかさうけあくハ牛こるのくい
をきり地ゆ子ゑ者代地城ゆすこ人のをんをと
ちうこすあられもちうゆうぬとるうちもようきまこ公
人とゆ前しあまのつうこ人姫んよすぎ今酒浅く
をもうこひい西へよ貝こふ神きゆ心よるりぎり
城ちうこ姫こうこるりあそこのさまークれ人乃心
のようくん半を祝うぐつねくのさかうよき
まけをよくくもちゆへ親よかうくなり人そ
ちよちうあり人のちてみとをんをすま生
ぬものハ主ちのをちあをこすてもなどちよ
りうりけすま者ハ生公よりげ記すこかーり

御うのまこ姫とのうこ御せく人のよーりのーとちさ
められあもんハ貝こふ人けうこ姫うくあ个ーち
のまへときめく人のこあちうよちーくみて
ゆうハぎうをそんもちうぬあま者をーう
とゆすーちうぐめんようけときのりすーふて
いうんや犬姫西んけあうこあもりのこ海りう
ー半なん地ゆるー 誠順礼曰ら津ゆる代ふ
をいうめへうりあほくすり人のさいくなうこ
西くみなる半ーかゆ今もあをのうきを海
半ーやいうん素善曰を人も地ゆくすりゆ貝
かくてうれりあ人よあをうきこ海とこそ森

いはゆる天子も師匠といふを
のこりなくなりぬ又ほとりをもて今はたつ
をしえをおしくるものの中に一なるべきを忠順孔曰む
うしはの人の師匠ありてさまの
義難とはさやうの人なきをもて我くはしたん
孟子曰周の文王は聖人なるべしと太公望を
師とせり文王より太公望は海内をあまねく
師匠とせられぬ聖人は海
うち人はかの人をもてこれをあつ
ともいふにうしきとて
ちるべきよのつねの人の分別はあるまじ。

もとめずとて捨るをもてあるをもてあるを
かうずるきはもとのりをもてはれと親角ひとりを
ゆるすべきはうの分は師匠をうるものはなにをもてあるを
はるをめしはよりはは師匠はよりてすぐれたる我
師匠と名をつまく物いませあるはは一きは
あるきみくまやはんざりはちりきは僧
法師なと師匠とうて国はあきなくへのう
羅これを称まきはなきに物をなるへ
物をとれつまはきこは人の中のもとをまか
一元良と名のつきうはいのへきはの一の元良
はのりくを君子はやをくかりをすくなる

師道こそ殘合はぬもつ經なるへ今は軍法は
を師とのみまれをこそてこそもつり事の用ゐ
角川といふ事をかくれる人をありしぞ友也
りの八五つまんの部とのみゆくなくてうれしぬ物
なれどもちろ人なるもちりもあるも
やをもん国のかをとりうへまは見きしたなと
りの八心我乃こそすうちかてり命きの中きと
まする重角ひよりのきさと我なをしぬ物
かるんこそ友れるめぞもうもいのつきあひいそ
の姫んさひの重いまくるもにあるしひぞまるへる
うこ海りぬるものぞうもを海る合あのを

ぬちりとこそそれ心やすとそも友とへのひ
かるぞ友なきゆへよ大分なる人へ何の事を
我程りこくてうきまれへ物もつれるる
こそ津さなまれぞうけかくへはまるへとも。ま
屋かくへ人へ人すぞもまれまもうれる
以人あれもむつうとくちつけを其人へも
耳ぬ事をいひてもせんすと思ひへあむ
事のちりをいやすりとそと我のくを海の事
そなすき其と我のくをまんろ人のよく身れ角
めとうんへくを海ゆへよ用こふ心地で
つまくをくすぞれよりく大分なる人の。

ゆちづけるをみるに半ばは人もおくゝ心の
わさとき程みえたくいとおかしれよあさ顔ゝ下
下の中より人の女ともまゐるべきゝ人やゝの女とみ
るに其身面垂なるハあれども姫つゝにいや
しくて田舎の花よあられぬるゝぶとくなんん
をつきるゝ又すこさ言葉やむ半ばきこゆ心
まゝあるゝぬハあやうゝ心ゝ人ゝこのかゝぬと
ひいきつゝくゝたのんハ人のゝゝみあるべし一方
よすきこのむ心のゝゝも重点の浦い色よ姫ぬ
色ゝやうよこれもなとせゝれん人もまれ
なりゝ又ゝなきなゝあるもあゝす十分よこそ

形きれども変ゆもなすりぬべき人見てゝ
ともゆゝこゝぬ人よなんゝりゝやをん強
ゝゝゝハ世よあ女人のめきゝハちゝ半
姫ゝ世よゝの女人ゝゝハゝしを角ゝ形こまゝめ
やうに形ゝくゝゝゝるまゝ物形ゝ世よすむゝひ
もなきまづゝき男めそゝ人のんれそこハもゝ
男れ人の心れ色ゝ鏡ゝゝけゝくみゝるんざ
そ見ともあとうきれをものゝくゝゝゝ形ゝゝ姫
椿の花ゝゝ女やうよ付ても愛ゝもをよも
ぬゝんまゝなゝ色あまゝゝゝゝゝこ形ゝとゝりゝ
ゝゝ人このむ人ゝりゝくゝもやりゝゝゝゝ源

きこゆもいかりうんうんと思ひて最後合す人
一畳の心は陽なり くつろぎ最のんは陰なり さ
より 孔順礼曰 人の分別は法もとも変が
ちくいやそなわそく弱りうろうよりくいや変答曰
ようづきあるはいつまでもよ法なり。弱りあるは
分別は河の男よ立うてもちゆくまま。
もちゆるようりめいるくすう人あるもや
きゆる別はあやまりたそこうは事なり。上
の分別はあそくてようき事ともあくてよう変
はもとも二つをはちくまちく。弱るへき式
も弱りもやうるへ表をもいそきもちろれゆ

身を紙上とす仏順孔曰。大なる命ハ人を一心
に義理なり。賢人ハ山を移すとも。命ハ
何ぞ動かしがたし。孟子ハ人ハ
もんてるゝ事ハ人をしてみ
うひなる義をもちをすとみえたり。此二
川の心をもつ事ハ人ハ
身をてハ人ハ何ぞ思ひ事ハ
ひへ一生養日。これを一大事ハ人ハ
よく志をけうしゆ人をめいしやうとやしなひ
ハ。運命といふ事ハ
志をもちをすべし。石公張良に授
張良うんれかうそよ授こへをこれなり。かうう
とかうそれ七十余年ハ
そ海を弱ひしうもかうそ運命の授ぬ
半をとるこそ
重て。懐よ天下を
ぬ弱ひしを運命
ぬ軍書。張良
く物をくわりつまもく大こゝもせぬ
そでをなきあとの
もあ。ハまこ
けいのをすぎ

張良うんれかうそよ授こへをこれなり。かうう
とかうそれ七十余年ハ
そ海を弱ひしうもかうそ運命の授ぬ
半をとるこそ
重て。懐よ天下を
ぬ弱ひしを運命
ぬ軍書。張良
く物をくわりつまもく大こゝもせぬ
そでをなきあとの
もあ。ハまこ
けいのをすぎ

とゝのへうゝ為ゆへなるへし。大公望と。孫子と
こうとゝそんしと張良とハ兵ゝ之の軍法や
ゆ[illegible]ぐそうの頼朝弾ハ[illegible]れやゆん[illegible]ゝとるん
きくぞうこいまこうんげへを。重衡なとの命
とをゝ。為いせ川乃ちぢをゝ[illegible]ゝうんを
ちゝぬゆへなり。斯ゝ石田ゞ[illegible]ゝ為いつようひ
形くゝとゝあゝ[illegible]き順礼曰。軍命を志為す
を分別ゝてすいるゝ[illegible]ゝ。[illegible]ゝなる
為形ゝひゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ諸答曰。一大事の
ゆゝ[illegible]ゝすいつゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
ちゝうちるゝこゝゝ[illegible]ゝの脉をとりく人乃

いきちゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
事ゝくゝ[illegible]ゝ順礼曰。大勇小勇仁儀の勇血
氣の勇とゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
ちゝきくゝ為ゝ答曰。血氣の勇とゝ[illegible]ゝ
ゝりゝつゝきとゝ[illegible]。仁儀の勇とゝ[illegible]理
ゝつゝきとゝ[illegible]。小勇とハ一人のゝ[illegible]ゝ
くちゝとゝ[illegible]。大勇とゝ[illegible]一為ゝ[illegible]ゝ天
下ゝ為ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
力とゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
いりんとゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
なる為切とゝすとゝ大勇といふなり。[illegible]順礼曰

是ハ分別者ありてこれをいふめ勇ちやといひ
こゝを答曰勇とハ思ひさだめてつゝまぬことを云
人ハとゝまりかくもいへぞまゝきまゝハすゆゑき
りぞまづく事ハまことにひさだめてうたがふ勇
なり勇にくゝなり事順礼曰ひ勇ハいつまつの能
ひやを答曰いつまてもよし仁儀の勇ハ人まハ
きの清りことをさせぬ勇ハ人りハ人ハ地ちりん
つゝこのへことにつゝひ大勇ハ人まハ大ゐをさ
せ血氣ハ勇者まハ人むりよ屈ぶる色きを不り
用ひへてこれ用よ小人ひへ一ゐ基ハ
を清ふがゆゑ上子と下をまこへ一ち

順礼曰弦国をゐんめぐりひよ仁のりを主意
一人のもちひ小人をもちひ
なく家老あくまの城あをぬ國もあり又形ふ
半を家をよ清ゆせ
ゆるやうよ大分みて盛乃
答曰いつまてもよ強かるすゆ大分みて清せ
るハよくひへとも信下の威つよく強い責ハ
ほくひへて其むりくをちまくすゆ
ゆいくよひ為きこと形ひゆるすゆへよくに
もうゆくいさ意威をうゆをとひ
ゆんとすまを物ほく人をうるひ意の分

こもあやうくよそのぞのえもやぎやう形らに又
家中をかの分のもくぐのものも家老よ海ら世
ぬやうよ主てうハ意の感ハあるやうよりへとも意
の海ーまさうぬあうそやーよりぬら絵ーめこれ
くよなり座とひくうる人のうるまあいのやう
みて志まうりすーみくるき事を絵作ーの
形ここるこうりぐ死のこのたんの時ハこれとか雑
とせんやとう絵てう絵くくこをみあれーろ
なうろよろきよこのすす 次順礼曰ハ二川を
のりてハうくを志くうろうトようくいろや益善曰礼をれ
きくして感をうきびとを絵ーるうようくいろ礼をあ

きくすとハ次第りくくの礼まうトくハこーら
を絵りんしーこげ雑ハ大ぐーらをあもんしー大
ー雑ハ家老を絵りんしー我のうこ海ーさ
のいろ絵ーハ行事あくもそもうしハ家老ハ意
を絵くくもそれ絵りんしーこ思ハ座うこ
ある人ーハ礼まうり感をうきあとハ業と縁を
乃二のまうり人よ初りを座ハ縁をあうの愛こ
とく人の者上我もうこすおとくハやうこうり
そあのも人よかさあ絵まうり意れこーよ付く
りを感をかさあとこ云なりハ志まりさうへ二の
主こ国の大小りあうして大分なる人ハあり

こそようきんぶ勇なる者もりめくハかこ衣
よくさと屋ゆんう永順礼曰さるやうよ彩りいへ
ちうれ事もこのきこ事ーもほ下のいさまハ
きくいれぬゲよくいやさるやうよいうぐうのき事
とこのさといひあゆんハぱそれくのあめよ先
いうく形う事なりあきこ事ーどこのまめと
いひうなぬ時ハこのきく人ほこ我のぐれくをいく
ようあへーちうれも何のもーをちうまなな
ぱいうんうちうあ時ハふくき者のもーハ人の
きえるーをいひく其人のうきる我もう
く形ーひのきなり者ハこのくいひくつ

こをのうまさせぎんふんひま我うめこあ
いうんを答曰りき事ーハ何の猫もりこのり場
ひそせくきくぷよの人ぬくちをきく。其とーま
くほものさりうを能学合さそもちあへきこあ
ーとよくぬこそこの言こ
感ふもうあへーこのき者のもーもりほもも
人よりもせくぷもとーりそあーに思こて法度
くうへあゆんハ人のさへうへうすぷ是を感を
りさありくいへき法順礼曰法国よかこき
屋うふくを大屋ひ形うあ事ーこそいへらう人
のい入法家とのうり人この。是ハ何思ふくい

つんや。津にこそ物こ形つくれめ。つ
ゐに形ある人形をもつくりて心はれりとか
入ときこえれいそ。陸奥人八人をくハ以ての
侍の位をうむ。八位の人をなりえこそ
ゐられをきこえなる。心はすてもやいりんと
彼なんぎん法度なれる礼あり。位の事ぞや。
愛の法ーぎ事形をもまできめくるとも
ーなる下。言れいハ心ぞめーき。昔より天
子ーなる。ーー形ひ。天下元亨も山ーー形ひ
ーー事なり。と更ゐ国ーて世ーのそーを
をつりうぬ言れなるりと年貢をうるうぬ

ちハ儀ーをなりとの言る礼あり。言る礼など
八天下の人形ーりとをそ書へきーー。天
ーを形あ。ーをまりて。うあも礼よ事ーを
其さ無ーりーのまりよんもうあくまくく
ーぜれ。ぞ事と言る礼よかんと思心のう
ちのさーりりやうれ事ハりん 祝 罪曰
子細もやいりんりさ志りす依ぞ礼曰今の式
のはまりつり事めり法器 答曰。ぞ志ひのれ。ふく。
ーりかりまなーとこそ形のを志山のあまま
でーも彫りてひへ其ぞれ事ーハ神ぞーりきぞ
考よハかる人もなきれきくーまもく

ひさかたの長閑なる春の夜はあけぬ色なく
野りひとて。澄のそらへ明るみえそうせは
なとゝ。咲れも咲より下へ今を咲りなる月はなち留
ぶくう秋のこゝろすそひゆくこの夏のくと。
うつ夏きゝ。きさ。ひさ。もなる義

五十ヨ